

三菱地所 1

丸の内、都心の「村」ベンチャー誘致



入り口のセンサーに指の指紋をあてて自動ドアを開くと、10人掛け程度の大きなテーブルが並ぶ。会議室はガラス張り、中の様子は丸見えだ。

三菱地所が2月、所有する東京銀行協会ビルの14階、約900平方メートルを改装して開設した「FINO LAB」。金融と情報技術を組み合わせた「フィンテック」にかかわるベンチャー35社を誘致した。

入居企業の社員数は1〜40人。軽装姿も目立つ。5社が個室を持つほかは仕切りのない共有スペースで働く。応接室や会議室もみんなで使う。皇居が見える休憩所や80人入れるイベントルームもある。広さで家賃が決まるのではなく、社員数に応じて利用料を払う。1人当たり月2万円だ。

三菱地所

の中心にロンドン・シティのようなフィンテックがにぎわう場をつくりたい。ぜひ来てほしい」。三菱地所の営業マンが小さなオフィスを訪ね、移転を促したのは1年ほど前だった。

今では社員数は40人に。入居した個室も3回増床した。森木博信・経営管理部長(31)は「大手行や取引先が徒歩圏内。海外の商談相手も呼び込みやすい」。別の企業とも交流が深まり、新規事業で手を組む構想も膨らんでいる。

三菱地所は、大企業が集まる東京・丸の内周辺のオフィス街に、成長が期待できるベンチャーを呼び込み、新風を吹き込もうとしているのだ。

久田氏が仲間と東京・恵比寿で2013年に創業したリキッドは、フィンテック業界では有望株。「日本



ベンチャー企業が集う「FINO LAB」の共用作業スペース。奥は会議室。東京都千代田区、越田省吾撮影

